

宮城県東松島市議会親善訪問報告書

■派遣内容

- ・派遣期間 令和8年7月1日（水）から7月2日（木）まで
- ・派遣場所 宮城県東松島市
- ・派遣議員 鈴木隆之、えびさわ圭介、天坂大介、柿島耕平、椿しんいち、田島和雄、清水菊美、佐藤伸、松原元、須藤英児、平野春望、宮崎かずま、奈須利江

■訪問の概要



東松島市役所にて

東日本大震災の発災後の平成 23 年 7 月に本区と「災害時における相互応援に関する協定（防災協定）」を締結してから 15 年が経過し、また本年 11 月には「友好都市提携」10 周年を迎える東松島市及び東松島市議会との友好・親善の促進を図るため、親善訪問を行った。2 日間にわたる訪問では、渥美巖市長、石森晃寿議長をはじめ東松島市議会議員の皆様から温かい歓迎を受けた。東松島市役所で行われた東松島市と大田区の議会意見交換会では、両都市における産業振興や後継者問題等について意見交換を行った。市内視察では、東

松島市震災復興伝承館、東松島市防災拠点備蓄基地等を丁寧にご案内いただいた。特に、東松島市震災復興伝承館では震災の悲惨さとそこからの復興に向けた歩みを再確認することが出来た。今回の親善訪問は、温かいおもてなしを受け、大変有意義で実り多い訪問となった。友好都市締結から 10 周年の交流を相互に感謝するとともに、今回の交流を通じて相互に発展していく可能性と両議会の友好の絆を更に深めていくことを改めて確認できた。

■訪問先

東松島市役所 東松島市議会 東松島市震災復興伝承館 東松島市防災拠点備蓄基地
道の駅 東松島 松島基地

■参加議員の感想

・去る 7 月 1 日から 2 日までの行程で、本区友好都市である東松島市への親善訪問を行った。両都市は今年で友好都市提携 10 周年を迎える記念すべき年での訪問となった。震災復興や防災、地域振興の取組について視察するとともに、東松島市議会との意見交換を行った。震災復興伝承館では、東日本大震災の甚大な被害を被った状況から、今日までの復興の歩みを学ぶことができた。防災拠点備蓄基地では、避難所運営を見据えた実践的な備蓄や物資管理について学び、平時からの備えの重要性を実感した。翌日は道の駅東松島に立ち寄り、地域の物産品を見た後に、自衛隊東松島基地



東松島市議会との意見交換会

を訪問し、ブルーインパルス の視察を行うことができた。当日は飛行訓練が行われる予定であったが、天候不良のため中止となったため、格納庫に全機駐機されており、そのため機体を見ながら実際に操縦をしているパイロットに直接話を聞くことができた。その場では、国家、国民のために日頃より多大なるご尽力をいただいていることへの日頃からの感謝を伝えると共に、日本の防衛について直接の話を聞くことができ、非常に貴重な機会となった。今回の親善訪問は、両都市と議会間の更なる交流を深めるとともに、大変有意義な機会となった。今後も友好都市として両自治体の交流と連携がさらに発展していくことを期待する。(鈴木隆之議長)

・ 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、私の議員活動が始まった年であり、大変印象深い災害であった。同年 7 月には大田区と東松島との災害協定等の視察として伺い、併せて汚泥除去作業のボランティアにも参加をさせて頂いた。その時には、今回も視察させて頂いた旧野蒜駅の伝承館がまだ災害の爪痕が残る野蒜駅の状態であり、当時避難所になった野蒜小学校も視察をさせて頂いてから 15 年の歳月が経った。東日本大震災を契機に始まった大田区と東松島市との災害協定から交流を重ねて、2026 年には友好都市提携を結び 10 周年という節目を迎え、支援する側・される側という関係ではなく、互いに学び合い、高め合う関係へと発展していることを強く感じた。今回の親善訪問を通じて東松島市議会の皆様との交流、意見交換では、東松島市としての人口減少や地域産業の担い手不足など、それぞれ置かれた環境は異なるものの、自治体が抱える課題には多くの共通点があることを改めて実感した。また、訪問先では、震災当時に大田区から寄せられた支援への感謝の言葉が随所で語られ、長年にわたり育まれてきた信頼関係の深さを改めて実感した。今回の訪問では、復興の歩みや地域振興の取組にも触れることができたが、それ以上に、人と人とのつながりこそが両自治体の財産であると感じた。今後も議会間をはじめ、住民同士や子どもたちなど幅広い交流として農業体験なども提案したいとも考える。この様に絆が次の世代へ受け継がれていくことを期待したい。(えびさわ圭介議員)



東松島市震災復興伝承館にて

・ 大田区と友好都市提携 10 周年を迎える東松島市への親善訪問に参加し、震災復興の歩みと防災減災の取組を視察するとともに、両議会の交流を深めた。東松島市震災復興伝承館では、東日本



慰霊碑の説明

大震災による甚大な被害と復興の経過を学び、災害の記憶を次世代へ継承する重要性を再認識した。防災拠点備蓄基地では、発災直後から迅速に物資を供給できる備蓄体制や物流機能について説明を受け、平時からの備えの重要性を再認識した。東松島市議会との懇談及び交流会では、防災、子育て、地域活性化など幅広い分野で意見交換を行い、自治体間の連携の意義を共有した。2 日目には道の駅東松島を視察し、地域資源を活用した観光振興や防災拠点としての役割を学んだ。続いて航空自衛隊松島基地では、基地の任務や災害派遣、地

域との共生について説明を受け、防衛と災害対応の両面で果たす役割への理解を深めた。今回の訪問で得た知見を今後の大田区政に生かしたい。(天坂大介議員)

・大田区と東松島市との友好都市提携 10 周年を記念し、東松島市議会への親善訪問を行った。震災復興や防災、地域振興の取組について視察するとともに、東松島市議会との意見交換を行った。震災復興伝承館では、東日本大震災の甚大な被害と復興の歩みを学び、災害の記憶と教訓を継承することの重要性を改めて認識した。また、防災拠点備蓄基地では、避難所運営を見据えた実践的な備蓄や物資管理について学び、平時からの備えの重要性を実感した。さらに、道の駅東松島や航空自衛隊松島基地を視察し、ブルーインパルスを活用



東松島市防災拠点備蓄基地にて

した観光振興や交流人口拡大の取組について理解を深めた。意見交換では、両自治体の取組や諸課題について活発な意見交換が行われた。今回の親善訪問は、議会間の交流を深めるとともに、相互理解を深める大変有意義な機会となった。今後も友好都市として両自治体の交流と連携がさらに発展していくことを期待するものである。(柿島耕平議員)

・令和 8 年 7 月 1 日から 2 日にかけて、東松島市議会親善訪問に参加しました。東松島市震災復興伝承館と防災拠点備蓄基地の視察では、東日本大震災の記憶を風化させずに防災意識を高め続ける重要性と災害時の公平な物資配給を実現するために備蓄品をセット化し、日頃から徹底した管理が行われていることを学びました。東松島市議会への表敬訪問では、石森議長から友好都市



松島基地にて

締結 10 周年の節目を迎え、さらなる交流促進への期待が示されました。交流会では、渥美市長から子育て支援や地産地消の給食施策等により、人口減少の抑制につながっていることを伺い、参考になりました。道の駅東松島では VR フライトを体験し羽田空港への活用の参考になりました。松島基地ではブルーインパルスの隊員と整備士から直接説明を受けた際、人々に元気と希望を与える飛行に感謝申し上げました。防災や地域資源を活かした施策の重要性を学ぶ有意義な訪問となりました。(田島和雄議員)

・今回は「友好都市」締結から 10 周年となる節目、記念すべき親善訪問に同行させていただいた。私は 4 年ぶり 3 回目の訪問となり、はじめに訪問した震災復興伝承館では、震災で亡くなられた 1,047 名、行方不明者 75 名、合計 1,122 名の方々を祀られた慰霊碑へ黙とうをささげ、15 年前に何が起こったのか、マグニチュード 9 という国内観測史上最大の地震が与えた被害とその後の復興をどのように築いてこられたのかをビデオや展示資料を拝見し学ばせていただいた。松島市防災拠点備蓄基地の状況は、食料・飲料水・生活必需品等の物資や避難所運営に必要な資機材を中心に発災から 3 日間を目途に準備され、物資の供給が迅速に行われるようにトラック等の車両が直接入れる幅の倉庫内の同線など、大規模災害を経験された知恵が随所に見られた。迎えてくだ

さった松島市議会議員の皆さんとは、見覚えのある議員も多く、夜に行われた懇談会では、議員同士の交流から子ども達の交流、産業や観光、防災に関する協力体制まで、胸襟を開いた懇談をさせていただいた。大田区にあって東松島にないもの、東松島市にあって大田区にないものなど、今後も、友好都市として親善を深めるとともに大田区政に活かしてまいりたい。(椿しんいち議員)

・宮城県東松島市と大田区が友好都市締結から 10 周年の大田区議会親善訪問に参加させていただきました。今回は、①東松島市震災伝承館、②東松島市防災拠点備蓄倉庫、③東松島市議会、④道の駅 東松島、⑤松島基地などに訪問・視察を行いました。私は東松島市には今回で 6 回目の訪問で、最初の訪問は 15 年前の東日本大震災直後の 5 月でした。当時は津波などで大量に発生した災害ゴミが山のように積まれ、その対応などにとっても忙しい時期だったことを思い出しました。東松島市震災復興伝承館では、この大量に発生した瓦礫を含む災害ゴミを手選別作業で、90%を超えるリサイクル率で実施・処理されたことが「東松島モデル」として取組みが紹介されていました。また、手選別作業は、震災で職を失った地域住民の雇用創出にもつながり、一日平均千五百人の雇用が発生し、うち約九百人は震災で職を無くしたり、生業の農業、漁業に従事できない市民であったことも特筆すべき取組みとして大きく印象に残りました。(佐藤伸議員)



震災発生当時の映像等鑑賞

・7月1日東松島市震災復興伝承館の視察では、東日本震災から15年がたちますが、言語を絶する災害のすさまじさと、残された人々が必死に生き抜いた証を後世に活かす施設であると実感しました。また、防災拠点備蓄基地は埃一つなく整然と整理されている様子にまずは驚きました。災害時につらく厳しい経験をしたからこそその工夫が随所に現れていると感じました。大田区も京



松島基地の視察・説明

浜島の拠点倉庫の改善が民間委託して始まっていますが、災害の際に本当に役立つのかの視点に立ってさらに強化が必要と感じました。7月2日の道の駅「東松島」は総事業費23億円三陸復興道路の開通により第1次産業の地域経済の活性化と、人口増を目指しているとのことでした。全国に様々な道の駅がありますが、衰退したものも見受けられますので、地利を生かし人々が集まるような施設となることを期待します。ブルーインパレスのVR体験は貴重でした。松島基地の見学は格納庫を詳しく見学でき、ブルーインパレスの機体を目の前で見ることができました。安全対策に万全の体制に感動しました。2日間の視察を通して、区民に東松島市との親善友好が深まっていることを広報し、次世代までつづくために努力していきたいと感じました。(清水菊美議員)

・令和8年7月1日から2日にかけて、大田区議会親善訪問団の一員として、友好都市である宮城県東松島市を訪問した。今回の訪問を通じ、災害の記憶を風化させず、次世代へ伝え続けるこ

との重要性を改めて感じた。旧・野蒜駅舎を活用した震災復興伝承館では、震災前まで日常の場にあった駅が、震災の記憶と教訓を伝える場となっていた。大田区においても、令和元年に台風19号による田園調布地域の浸水被害があり、地元から災害の記録を見える形で地域に残すことを求める要望があったが、区はこれに応じなかったと記憶している。また、去年は上池台を中心に浸水被害が発生している。災害の記録は、単なる過去の保存ではなく、次の被害を防ぎ、区民の防災意識を高めるための重要な資源である。今回の学びを踏まえ、大田区においても、災害の記憶を地域に残して共有し、防災・減災へつなげる仕組みづくりを進める必要性を改めて感じた。
(松原元議員)

・東松島市親善訪問は、海拔約2mの旧野蒜駅から内陸側の海拔22mの高台に移転された野蒜駅からの開始でした。野蒜駅前に広がる野蒜ヶ丘(野蒜北部丘陵)は、平成23年東日本大震災で甚大な被害を受けた野蒜・東名地区の方々のための防災集団移転促進事業として整備された、東名と野蒜の二つの駅を含む約91.5haの街です。約70mの山を削り、海拔22mの高台を造り、450戸の住居、小学校、高齢者施設、医療施設が建てられています。震災復興伝承館として使われている旧野蒜駅から、内陸側を見上げると高台移転された野蒜駅を見る事が出来ます。交流会では、東日本大震災当時、津波から逃げた東松島市議会議員の体験談を聴く事が出来、津波や高潮、大雨の時の高い場所への「避難」について考えさせられました。大田区高台まちづくり基本方針では、避難出来る高い場所の確保が重要です。例えば、海拔5mの大森第三中学校の裏側にある階段を上ると、海拔22mの佐伯山緑地まで避難する事が出来ます。(須藤英児議員)



東松島市防災拠点備蓄基地の視察・説明

・東松島市議会親善訪問として7月1日、2日に大田区の友好都市である宮城県東松島市に訪れました。一日目は①東松島市震災復興伝承館、②東松島市防災拠点備蓄基地、二日目は③道の駅東松島、④航空自衛隊松島基地の4か所の視察を行いました。また車窓からですが、パークゴルフ場、みそら工業団地などの復興状況も視察しました。東松島市震災復興伝承館では、東日本大震災での津波の恐ろしさ、そしてその災害対応などについて、現地やビデオなどの映像も通して多くの学びがありました。東松島市防災拠点備蓄基地では倉庫内に備蓄物資が整然と並んでおり、災害時に迅速に各地に配備出来るように工夫された作りになっていました。二日目も東松島市がどう復興しているのかを視察させて頂きました。



東松島市議会との意見交換会

東松島市議会の皆様には大変温かく迎えていただき、有意義な意見交換を行うことができました。今回の視察で得た多くの学びを大田区の防災・区政に還元するとともに、両都市の友好の絆をさらに発展させてまいります。(平野春望議員)

・今回の親善訪問では、震災からの復興、防災体制、そして自治体間交流の重要性について、改めて考える機会となった。東松島市震災復興伝承館では、東日本大震災による甚大な被害と、その後

の復興に向けた歩みを学び、そして何よりも「同じことを二度と起こさせない」とのメッセージを強く感じた。また、防災拠点備蓄基地の視察では、発災時に備えた物資の確保や拠点整備、行政としての初動対応の重要性を再認識した。平時からの備えと地域全体での意識共有が強く感じられた。東松島市議会との交流では、ざっくばらんな意見交換を行った。今回は友好都市締結 10 周年の節目であったが、今後 20 年、50 年、100 年と関係を繋いでいく価値を、東松島市議会の皆様と話し合った。今後とも、個人、会派としても関係構築の一端を担っていく。(宮崎かずま議員)

・東日本大震災の被災地で大田区の友好都市でもある東松島市を訪問し、震災復興伝承館、防災拠点備蓄基地などを見学するとともに、東松島市議会議員の皆さまと交流しました。天皇家へも献上する品質の高い海苔がとれるのは、山から流れ出る養分豊かな水のおかげだそうで、海苔の漁場だった羽田沖を思い起しました。当地では、豊富だった鮭やホヤの収穫量が減る一方、フグや伊勢海老が捕れるようになるなど、海流の変化や海水温の上昇が原因と思われる変化もあるそうです。津波の被害にあった駅周辺は、70mの山を崩し 20mにした台地部に移転し、仙石線も移設されましたが、これほどの土木工事は類を見ないそうです。掘削した土砂をベルトコンベアで海側に運び、防潮堤を作っています。災害時には多くのボランティアが訪れ、中には、東松島市への定住を決めた方もいるなど、悲惨な体験を経ても変化を伴いながら力強く復興する市の様子を学ばせていただきました。(奈須利江議員)



東松島市震災復興伝承館の視察・説明